

十和田奥入瀬浪漫街道

自然資源を活かしたおもてなしの沿道景観づくりが進められています！



▲十和田奥入瀬浪漫街道の国道102号を彩る「あじさいロード」

青森県七戸十和田駅を起点とした「十和田奥入瀬浪漫街道」は、日本を代表する景勝地の十和田湖、奥入瀬溪流がある十和田八幡平国立公園を有する自然豊かなエリアにあります。

国道4号、45号、102号、394号からなる総延長約120kmのルートで、国道102号上の「あじさいロード」では、約2kmの区間に植えられたあじさいの花が初夏の沿道を彩ります。

この花のおもてなしは、地域で大切に引き継がれてきた取り組みです。

約40年前、花の好きな一人のおばあさんが沿道に花を植え、お客さんを迎えていたことに始まります。

やがて地域の婦人会が引き継ぎ、さらに浪漫街道の活動主体であるNPO十和田奥入瀬郷づくりが引き継いで現在に至っています。



▲あじさいロードの維持管理風景

あじさいロードではこれまで一年草を毎年植栽していましたが、平成 19 年の風景街道の登録後は多年草のアジサイを植栽しました。アジサイは、十和田市の姉妹都市、高知県土佐町のシンボル花。土佐町から取り寄せた苗が十和田市で見事に咲いています。

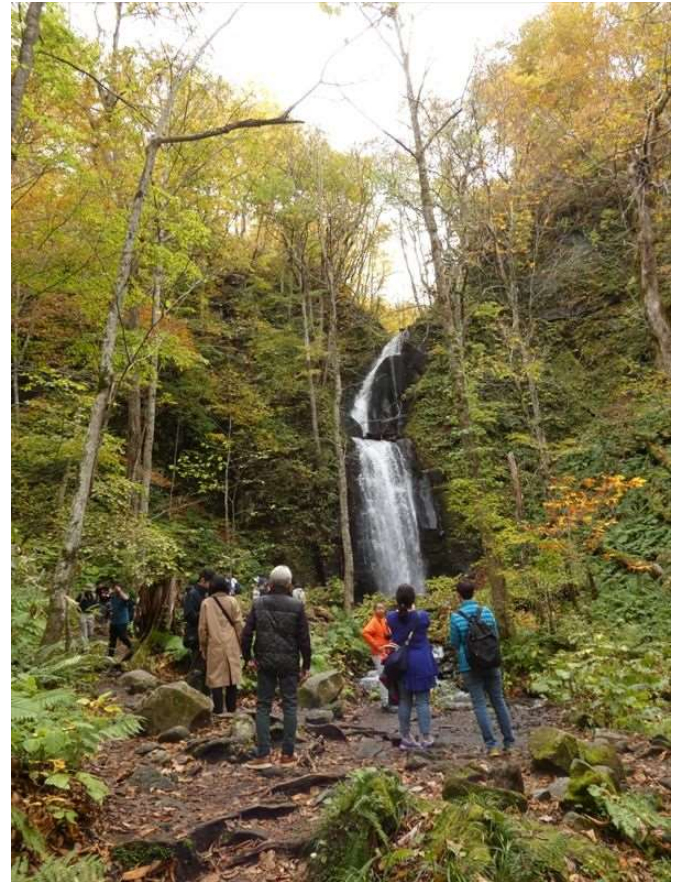
活動団体の約 25 名で毎年 5~6 回、アジサイの剪定、施肥、除草などの維持管理の作業を行っています。

浪漫街道の活動の原動力は「お客さんに喜んでもらうこと」。そして活動は、新たなステージを迎えようとしています。

重要な地域資源の一つである奥入瀬溪流では、溪流沿いの国道 102 号において、観光シーズンには渋滞が発生していましたが、これを解消するために、現在、バイパストンネル工事が進められています。

6~7 年後の竣工後には国道 102 号のマイカーや大型バスが交通規制され、溪流の散策時の安全性や快適性が向上する予定です。

今後、さらに魅力を増す奥入瀬溪流。その時、十和田市現代美術館がある十和田市街から奥入瀬溪流へ、来訪者がより楽しみながら訪れることができるよう、沿道の景観づくりでは新たな取組が行われようとしています。



▲ 自然豊かな魅力にあふれる奥入瀬溪流



▲ 十和田現代美術館と官庁街通り



▲ 奥入瀬溪流を楽しむ来訪者

その1つがイチョウによる「黄金の郷」づくりです。その舞台は奥入瀬溪流のスタート地点にあたる「淵沢」。この一帯は、かつて修験者が十和田湖に向かう前に禊を行っていた「禊の里」であり、樹齢約1100年、日本4番目の大きさ（樹高33m）を誇る国の天然記念物「法量のイチョウ」もあります。

この周辺の農作放棄地に多くのイチョウを植栽して「黄金の郷」をつくることを目指しています。

お客さんを気持ちよく迎えようと活動する十和田奥入瀬浪漫街道。自然資源を活かした、魅せる景観づくりが進められています。



▲ 法量のイチョウ



▲ 禊の里